

岐阜女子大学におけるデジタルアーカイブ学会の研究会の開催について ～「第2回定例研究会」と「ウィキペディアタウン in 岐阜」～

三宅 茜巳・石原 眞理

デジタルアーカイブ学会の定例研究会、人材養成部門研究会として、岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所にて開催された各種研究会の報告を行う。

1. 第2回定例研究会

【テーマ】「海外のアーカイブ、デジタルアーカイブ、ビジネスアーカイブ」

【講師】松崎裕子氏

公益財団法人渋沢栄一記念財団情報資源センター 企業史料プロジェクト担当

【主催】デジタルアーカイブ学会 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所

【日時】2017年8月21日 月曜日 13時～17時

【場所】岐阜女子大学 文化情報研究センター 5階第4研修室

【参加人数】33名

【講演概要】

講演の主な内容は以下の3項目であった。一つ目は松崎氏が所属している渋沢栄一記念財団及び国際アーカイブズ評議会についてである。前者については、企業アーカイブズの意義を「経済道義」の視点から解説し、企業史料の保存と活用は企業家精神の奨励と、企業文化発展への貢献へとつながるという説明があり、よく理解できた。後者については、国際アーカイブズ評議会の解説に合わせて、1838年英国公文書館法制定から2017年にいたるアーカイブズの流れを示した講師手作りの年表が配布された。アーカイブの来し方と今後の発展が展望できる価値ある資料であった。

二つ目は組織アーカイブズとしての企業アーカイブズに関する解説及び日本企業がアーカイブに関して困っていることについての話であった。後者に関しては、①専門性を社内で継続的に調達確保できない、②記録管理の仕組みがないといった日本企業の特徴について指摘があった。また、企業のアーカイブズ活動における企業間や外部の専門家との連携の必要性について言及された。

三つ目は日本及び世界の企業アーカイブズの紹介であり、帝国データバンク史料館、トヨタ自動車アーカイブズグループ、Walgreens Boots Alliance Archives、HSBC Global Archives、BT Archives & The BT Digital Archives、IBM Archives、The Archives、Levi Strauss、Coca-Cola Archivesの事例が紹介された。

今回の研究会を通して、松崎氏の論文「企業アーカイブズを持続可能なものとする：日本の経営におけるアーキビストとは？」（アーカイブズ学研究21、2014.12）の末尾にあるように、人材養成部門においては、経営者等に対する啓発、社内の教育研修、専門職の養成、教科書など学習リソースの開発・普及等に関する研究・研修・実践を一層進めていく必要があると感じた。

（本稿は「デジタルアーカイブ学会 第2回定例研究会 報告」、『デジタルアーカイブ学会誌』2巻（2018）1号 p.41を一部書き改めたものである）

2. 「ウィキペディアタウン in 岐阜」の開催

2017年11月23日、岐阜県では初めての「ウィキペディアタウン」を、デジタルアーカイブ学会人材養成部会事業の一環として実施した。主催は本学・デジタルアーカイブ学会人材養成部会・日本教育情報学会デジタルアーカイブ研究会、執筆項目に関する調査については岐阜市立図書館の郷土資料及びレファレンスサービス担当者の協力を得た。

本学の文化情報研究センターを会場とし、オープンデータ京都実践会の青木和人氏とウィキペディアンのMiya.m氏を講師に迎えて実施した。参加者は14名であった。

(1) 「ウィキペディアタウン」とは

ウィキペディアタウンは「地域の項目をウィキペディアに作成して全世界に発信することを目的としたフィールドワークと編集作業を組み合わせた一種のワークショップである。日本では2013年から始まり、各種図書館や博物館などのGLAM施設、シビックテックやまちおこしのグループ、ウィキペディアの編集者らが連携する草の根の活動として各地で100を超える数が開催されている(2017年5月現在)」¹⁾、或いは「その地域にある文化財や観光名所などの情報をインターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、さらに掲載記事へのアクセスの容易さを実現した街(町)のことである。また2018年現在、日本においては街(町)そのものを指す語句よりも、ウィキペディアを編集するイベントを「ウィキペディアタウン」と呼ぶことが定着しつつ²⁾あると説明されている。

(2) 「ウィキペディアタウン in 岐阜」の実施

執筆項目は「弥八地蔵」及び「岐阜女子大学デジタルミュージアム」であり、2項目とも新規の執筆項目であった。午前中は講師によるウィキペディアの概要説明の後、参加者全員が弥八地蔵のフィールドワークと撮影を行った。午後は岐阜女子大学デジタルミュージアムについて本学教員の解説を聞いた後、「弥八地蔵」と「岐阜女子大学デジタルミュージアム」を担当する2グループに分かれ、それぞれ執筆分担を決め、講師の指導をあおぎながら記事を作成した。記事を執筆するに当たって欠かせない参考文献の準備には、岐阜市立図書館の全面的なご協力があった。ほとんどの参加者がウィキペディアの記事をはじめて執筆したにもかかわらず、充実した内容の新規2項目を完成させた。

(3) 「ウィキペディアタウン」をデジタルアーカイブ学会の事業として行うことの意味

本イベントは、ウィキペディアタウンを地域文化資源のデジタルアーカイブ化及び発信ととらえたことから実施したものである。コンテンツを作るだけでなく、その場でウィキペディアタウンにアップする体験・ワークショップを通じて、地域文化資源発信の在り方を学ぶことができた。

【引用・参考文献】

1)加藤文彦. “ウィキペディアタウン説明資料”.

<https://www.facebook.com/groups/WikipediaTown/>, (参照 2018-05-14)

2)”ウィキペディアタウン”. <https://ja.wikipedia.org/wiki/> (参照 2018-05-14)

(本稿は「人材養成部会「ウィキペディアタウン in 岐阜」実施報告」『デジタルアーカイブ学会誌』2巻(2018)1号 p. 43を一部書き改めたものである)